



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年2月8日

上場会社名 株式会社Misumi 上場取引所 福
 コード番号 7441 URL http://kk-misumi.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡 恒憲
 問合せ先責任者 (役職名) サポート本部長兼経理部長 (氏名) 今田 和孝 (TEL) 099-260-2213
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	44,797	7.6	659	9.8	926	9.4	579	△4.4
30年3月期第3四半期	41,648	12.6	600	△9.3	846	△4.2	606	10.3

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 315百万円(△67.2%) 30年3月期第3四半期 962百万円(64.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	95.99	—
30年3月期第3四半期	100.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	36,314	16,598	45.0
30年3月期	35,378	16,510	46.0

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 16,337百万円 30年3月期 16,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
31年3月期	—	17.00	—		
31年3月期(予想)				17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	60,057	4.5	1,125	19.5	1,420	7.6	822	10.9
								136.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	6,100,503株	30年3月期	6,100,503株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	69,269株	30年3月期	60,969株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	6,036,665株	30年3月期3Q	6,045,206株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの営業基盤である南九州の経済は、生産活動や消費関連は緩やかな回復基調を維持しているものの、人口減少を背景とした人材確保難と労働単価の上昇による人件費の増加など、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で当社グループは、主力のエネルギー関連商品の販売シェアの拡大に向け、法人顧客の新規開拓や既存顧客に対する増販活動に注力するとともに、平成30年5月からLPガスの集中監視システムの導入を本格的に開始し、業務の効率化とIoT利用による顧客満足度の向上に取り組んでおります。また、既存店舗の活性化等を目的とした店舗リニューアルを進める一方で、「店舗オペレーションの強化」と「お客様との接点強化」による信頼関係の構築に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高はエネルギー関連商品の販売価格が上昇したことにより447億97百万円（前年同四半期比7.6%増）、経常利益は9億26百万円（前年同四半期比9.4%増）となりましたが、税金費用の増加等により親会社株主に帰属する四半期純利益は5億79百万円（前年同四半期比4.4%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

1 エネルギー

「エネルギー」セグメントの石油部門では、「ENEOSカード」等の積極的な発券活動によるユーザーの囲い込みや、法人顧客の新規獲得強化による燃料油の増販及び油外商品の拡販に努めました。

ガス部門では、訪問活動による新規顧客の開拓やガス関連商品の提案等によるお客様との関係強化に取り組むとともに、5月からLPガスの集中監視システムの導入を開始し、自動検針による人件費の抑制や配送業務の効率化を進めております。

また、発電部門では、鹿児島県内初となる農業用水を利用する発電方式(完全従属式)を採用した田口用水発電所(鹿児島県霧島市)が完成し、12月から売電を開始いたしました。

以上の結果、原油価格やLPガス輸入価格の影響に伴い、エネルギー関連商品の販売価格が上昇したことにより、売上高は353億28百万円（前年同四半期比9.6%増）となりましたが、収益改善が図れなかったことで、セグメント利益（営業利益）は6億50百万円（前年同四半期比9.7%減）となりました。

2 ライフスタイル

「ライフスタイル」セグメントのカルチャー部門では、利便性を考慮した売場レイアウトの変更を実施するとともに、非効率なエリアの商品入替を進めることで、お客様の幅広いニーズに合わせた店舗づくりに努めました。7月にブックスミスミ日向店(宮崎県日向市)をKFC日向店と同じ敷地内に新築オープンいたしました。一方、採算の悪化していたメディアミスミTSUTAYA南港店(鹿児島市)を8月末で閉店いたしました。

自動車部門では、出張展示会の開催による集客を図り、新車販売の増販に努めるとともに、タイヤ販売における新規取引先の開拓と売れ筋商品の販売に注力し、収益確保に努めました。

ホームライフ部門では、新築・リフォーム物件の展示会、相談会を実施することで集客を図るとともに、11月に鹿児島市吉野地区にモデルハウスを建築し、新規受注獲得に努めました。

以上の結果、カルチャー部門の売上改善が図れなかったこと等により、売上高は51億41百万円（前年同四半期比2.4%減）となりましたが、前期に発生したオブシアミスミの改装費用もあり、セグメント利益（営業利益）は71百万円（前年同四半期比1,145.7%増）となりました。

3 フード&ビバレッジ

「フード&ビバレッジ」セグメントの外食部門では、主力形態であるKFCにおいて、5月にKFC花ヶ島店(宮崎市)の改装を実施するとともに、コスト管理とオペレーション力の強化に努めました。一方、採算の悪化していたKFC新天街店(熊本市)を10月末で閉店いたしました。

ミネラルウォーター部門では、通信販売での購入層を中心としたキャンペーンを実施するなど、宅配売上の強化に努めました。

以上の結果、KFCのキャンペーンが好調だったことにより、売上高は43億27百万円（前年同四半期比4.3%増）、セグメント利益（営業利益）は4億16百万円（前年同四半期比27.2%増）となりました。

(上記金額には、消費税等は含まれておりません。)

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて9億35百万円増加し、363億14百万円となりました。これは主に、現金及び預金や有形固定資産が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて8億47百万円増加し、197億16百万円となりました。これは主に、買掛金や借入金等が増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて88百万円増加し、165億98百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想は、平成30年5月11日発表から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,074,676	5,319,510
受取手形及び売掛金	5,311,229	5,365,695
商品及び製品	2,442,727	2,652,019
仕掛品	2,802	18,195
原材料及び貯蔵品	34,967	31,723
その他	551,618	734,402
貸倒引当金	△80,850	△117,381
流動資産合計	13,337,170	14,004,164
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,768,380	4,485,132
土地	12,034,438	12,034,684
その他(純額)	1,437,303	1,244,283
有形固定資産合計	17,240,122	17,764,100
無形固定資産	219,923	369,371
投資その他の資産		
その他	4,769,441	4,367,262
貸倒引当金	△187,771	△190,132
投資その他の資産合計	4,581,669	4,177,129
固定資産合計	22,041,715	22,310,601
資産合計	35,378,886	36,314,765
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,797,363	2,257,309
短期借入金	4,160,000	4,515,000
1年内返済予定の長期借入金	2,691,831	2,802,000
未払法人税等	310,489	146,681
賞与引当金	262,820	157,798
厚生年金基金解散損失引当金	267,514	267,514
その他	1,897,117	1,872,126
流動負債合計	11,387,135	12,018,430
固定負債		
長期借入金	5,709,989	5,995,989
役員退職慰労引当金	612,300	643,700
その他	1,159,168	1,058,296
固定負債合計	7,481,457	7,697,985
負債合計	18,868,592	19,716,416

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,690,899	1,690,899
資本剰余金	1,646,600	1,646,600
利益剰余金	12,187,971	12,562,127
自己株式	△98,498	△114,824
株主資本合計	15,426,973	15,784,802
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	838,559	540,898
退職給付に係る調整累計額	△2,753	11,541
その他の包括利益累計額合計	835,806	552,439
非支配株主持分	247,514	261,106
純資産合計	16,510,294	16,598,349
負債純資産合計	35,378,886	36,314,765

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	41,648,618	44,797,958
売上原価	32,945,941	36,043,527
売上総利益	8,702,676	8,754,430
販売費及び一般管理費	8,101,962	8,094,864
営業利益	600,714	659,565
営業外収益		
受取利息	2,062	2,092
受取配当金	49,929	53,447
受取賃貸料	84,356	95,530
その他	211,025	206,986
営業外収益合計	347,374	358,057
営業外費用		
支払利息	44,143	44,181
賃貸費用	11,717	9,417
固定資産除却損	16,669	15,595
その他	29,117	22,089
営業外費用合計	101,647	91,285
経常利益	846,441	926,338
特別利益		
固定資産売却益	16,653	1,971
投資有価証券売却益	992	—
収用補償金	—	482
特別利益合計	17,645	2,454
特別損失		
固定資産売却損	800	38
特別損失合計	800	38
税金等調整前四半期純利益	863,286	928,753
法人税、住民税及び事業税	201,539	289,792
法人税等調整額	28,606	41,758
法人税等合計	230,145	331,550
四半期純利益	633,141	597,203
非支配株主に帰属する四半期純利益	26,947	17,761
親会社株主に帰属する四半期純利益	606,193	579,441

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	633,141	597,203
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	286,788	△297,661
退職給付に係る調整額	42,802	16,120
その他の包括利益合計	329,590	△281,540
四半期包括利益	962,731	315,662
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	933,910	296,075
非支配株主に係る四半期包括利益	28,821	19,586

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	32,227,538	5,270,934	4,150,145	41,648,618	—	41,648,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,412	89,770	18,632	126,816	△126,816	—
計	32,245,950	5,360,705	4,168,778	41,775,434	△126,816	41,648,618
セグメント利益	720,593	5,710	327,578	1,053,882	△453,168	600,714

(注) 1 セグメント利益の調整額△453,168千円には、セグメント間取引消去3,866千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△457,034千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	35,328,918	5,141,824	4,327,214	44,797,958	—	44,797,958
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,990	71,929	18,456	109,376	△109,376	—
計	35,347,909	5,213,753	4,345,670	44,907,334	△109,376	44,797,958
セグメント利益	650,771	71,142	416,713	1,138,627	△479,061	659,565

(注) 1 セグメント利益の調整額△479,061千円には、セグメント間取引消去3,708千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△482,769千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。